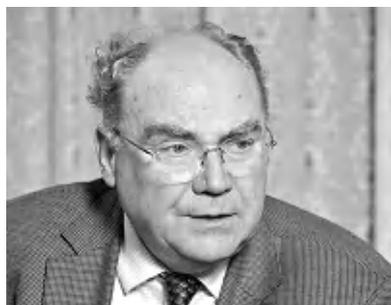


小沢一郎氏は無実！

既得権勢力<政・財・官・司法・マスコミ>による、

小沢氏への「人物破壊」攻撃について



政治学者・ジャーナリスト ウォルフレン教授

<人物破壊>とは？

「標的とする人物を実際に殺さないまでも、その世間での評判や人物像を破壊しようとする行為。小沢氏の政治生命を抹殺するために用いられたのは日本の伝統的な手法、すなわちスキャンダルであった。スキャンダルを成功させるには、検察と新聞の協力が不可欠。検察は、記者クラブに所属するジャーナリストたちに、だれに狙いを定めているか告げ、逮捕や証拠品の押収時に注意するようながし、彼らが欲しがる情報をリークしてやる。リークされた情報に基づいて記者は記事を書き、新聞の一面にどかどかと掲載される。

小沢氏の人物破壊キャンペーンに関する限り、これは世界のあらゆる国々の政治世界でも目にすることのない、きわめて異質なものだと結論せざるを得ない。世界のどこを見回しても、ひとりの人間の世評を貶めようとするキャンペーンが、これほど長期にわたって延々と繰り返されてきた例はほかにない。

小沢氏は、日本が変わらなければならないことを知っている。しかも彼は本気でそれに取り組んでいる。日本の旧態依然とした体制を変えまいと固執する勢力から見れば、そんな小沢氏は脅威なのだという事実を、我々ははっきりと認識しなければならない。そのときどきで程度の差こそあれ、小沢氏に対する『人物破壊』の試みが、現在にいたるまでずっと続いてきたのはなぜか？それは彼が実際に何をしたか、どんな過ちをおかしたかなどということとはまったく関係がない。彼という存在が体制側にとって最大の脅威であること、それこそが理由なのである」

ーカレル・ヴァン・ウォルフレン著 「誰が小沢一郎を殺すのか？」第一章 「人物破壊」にさらされる小沢一郎 より



収賄の証拠なし。虚偽記載の事実なし。検察審査会の人選は不正ソフトを使用。起訴議決の根拠の捜査報告書には、担当検事の「虚偽記載」。元秘書らへの一審有罪は、裁判長の「推認」の連発による不当判決。

小沢一郎氏は無実！ 陸山会事件国策捜査・不当裁判糾弾デモ

インターネットで呼びかけ、連続実施中です。どなたでもご参加いただけます。

開催情報 陸山会事件 国策捜査・不当裁判糾弾デモ 東京 <http://wrongly-convicted.seesaa.net/>